

# 安曇野ルール

先人からの恵みを明日へ……

## 井戸水の利用者

届け出制を生かし、災害時の給水に活用することを提案します。



近藤真奈美さん  
(穂高・島新田区)

深さ15mからくみ上げた地下水を生活全般に利用し、庭木などにも使い、その良さを実感しています。地下水利用者を届出制にすることで井戸の場所が分かり災害時にも活用できると思います。安曇野は上水道も地下水が水源ですし、水を大切にしたいと思っています。

## 市民の声

井戸水利用や、雨水タンクによる涵養の取り組み

## 雨水タンクの利用者

水が豊富な安曇野。大切さや価値を、もう一度考えてみる機会だと思えます。



山口香緒里さん  
(堀金・中堀区)

市の補助制度を使い、自宅に雨水タンクを設置しました。家庭菜園や庭の散水に使っています。県外に住んでいた時は、水はとても貴重でした。安曇野は、水が豊富なため、住んでいる人がその大切さや価値を実感していないような気がします。畑などに水を使うことで少しでも地下水を守れたらうれしいです。



山口さん宅の雨水タンク



ミネラルウォーターの製造ライン



ゴールドバック工場内の涵養実験施設



あづみ野工場内の浸透ます



株式会社あづみ野  
副工場長 土屋 勝さん

# Mineral Water

安曇野の水を大切にしなければ、私たちの会社、製品は成り立たない

株式会社あづみ野  
(穂高・有明)

工場では1本の井戸で、地下約70〜90mの深さから地下水をくみ上げ、熱処理せず、フィルターで除菌し、ペットボトルに詰めて出荷しています。1日の取水量は約400ト。地下水利用の内訳は製品に約270ト、残り約130トはペットボトル

洗浄や出荷ラインで使用し、再び地下に浸透させています。副工場長の土屋勝さんは「当初から余った水は地下に戻すことを前提に工場稼働させている。くみ上げた地下水をそのまま製品にしているのは、地下に戻す水の品質には問題はない。定期的に水質検査も行っている」と話します。また、安曇野ルール(指針)について「私たちが作る製品は安曇野の地下水そのものなので、守るための届け出や報告、協力は必要なことと考えています。安曇野の水を大切にしなければ、私たちの会社、製品は成り立たない。市民の皆さんと一緒に守って行きたい」と話してくれました。

株式会社あづみ野では平成19年から現在の場所でナチュラルミネラルウォーターの製造を始めた。主に首都圏に向けて、出荷し、年間2億のペットボトル

に換算して約3000万本を製造。出荷額は9億円(平成23年)で、工場では市内や近隣市町村から集まった50人の従業員が働いています。

# 聞く



ゴールドバック株式会社  
取締役・品質保証部長  
桜井克治さん

「ミネラルウォーター製造」

平成20年4月から同社では、工場内でくみ上げた地下水の一部を浸透ますに浸透させる実験をしています。桜井さんは今後の地下水の涵養について「現在、工場では、冷却水と浄化した洗浄水を近くの拾ヶ堰へ放流している。今後、行政と協力し遊休農地や広い面積の休耕田等を使って、地下浸透させる仕組みができればと思う。地元の企業として地域に密着し事業展開を図っていききたい」と話してくれました。

## 地下水の今を



## 地下浸透させる仕組みに協力したい

ゴールドバック株式会社  
(堀金・烏川)

旧堀金村の工場誘致で平成3年から現在の場所で製造を始めました。原料の地下水の水量・水质が良いことが魅力で進出を決めました。現在は、主に首都圏に向け、果実・野菜飲料、ミネラルウォーターなどを製造しています。出荷額は397億円(平成23年)で、工場では市内や近隣市町村から集まった従業員310人が働いています。工場には5本の井戸があり、1日約8000トの地下水をくみ上げています。地下水は原材料に約

1550ト。そのほか、洗浄水や冷却水などに使われています。安曇野工業会の一員として地下水保全対策研究委員会の指針作りに参加した同社取締役の桜井克治さんは「協礼金については、皆さんが合意した一定のルールができた折には協力したい。特定の者が大きな負担とならないよう広く、薄く負担する概念で地下水を守っていきたい。安曇野の地下水がなければ自分たちの経営も継続できない。地域の皆さんと協力しながら皆さんの力になれるところは力になりたい」と話します。